



◆「第35回児童生徒の平和メッセージ展 戦後80年」

「母との絆」

知念中学校 三年 宇根 莉珠亜



皆さん、「反抗期」と聞くとなんだか、イライラしていやなことだと感じませんか？反抗期真っ只中の人や、もう終わった人、これから反抗期を迎える人などさまざまでしょう。

私の反抗期は小学五年生から始まり、中学一年生にかけての期間でした。訳の分からない胸の中のモヤモヤと、小さなことにも苛立ってしまう自分に、いったい何が起きているのか分からない日々でした。そんな私の扱いに困っていた母の姿を今でも思い出します。

ある日、わけもなく私は機嫌が悪く、それでも母は優しく接してくれているのに、母に強く当たってしまい言い合いになってしまったことがありました。私は怒りに任せて家を飛び出し、近くに住む祖母の家へと向かいました。その日以来、私は祖母と暮らすようになりました。はじめは驚いていた祖母も、そんな私を大きな気持ちで受け止めてくれたし、母に至っては、私を追い詰めることもなく、ただただ見守ってくれました。母にも祖母にも迷惑をかけてしまったと、今になって思うと申し訳ない気持ちでいっぱいです。

あの頃は、母と毎日のように喧嘩をしていました。自分の思い通りにならないとすぐに機嫌が悪くなり、ものに当たったり、さらには母に対して思わず口をついて出ってしまった良くない言葉で、母を傷つけてしまっていました。今思うと、私が悪かったのに「絶対に謝りたくない」という気持ちが大きくて素直に謝ることができませんでした。あの時「ごめんなさい」と言っていればすぐに仲直りできて母を傷つけたり怒らせたりすることもなかったはず…。こればかりは、悔やんでも悔やみきれない後悔となっています。

そんな苦い反抗期の時期を過ごした私たち親子は、今となっては本当に仲が良く、何でも相談できる関係です。反抗期は子どもも親も辛い時期ですが、そんな時こそしっかり想いを伝え合いながら、向き合うことが大切だと思います。私の母は、私がどんなにわがままを言っても、話を聞いてくれたし、受け入れてくれました。そんな安心感が私の土台となり、自分が挑戦したいことに、思いっきり向かっていくことができました。

色々なことに興味をもって突き進む私は、パワーに満ちた野球部のマネージャーをしたり、また英語や海外にも関心があるため、二年生の時には、母に頼んでアメリカのワシントンへの三週間にも渡る大きな研修に参加させてもらいました。不安もあるけれど、でも何かあれば、帰る場所が私にはある。そう思えるだけで、ホッとできるし力が湧いてくるのです。あの頃の私があったから、ここまで成長できたんだと実感しています。そしてそんな私を真っ正面から受け止めて、向き合ってくれた母の強さと優しさに、心から感謝しています。苦い反抗期があったからこそ、今の私達親子の関係がより良く前にも増して仲良く楽しく過ごせていると思っています。

あなたは、今の気持ちをちゃんと親に伝えているでしょうか？我慢して自分の思いを溜め込まず、思いっきり親とぶつかることも大切だと、私はこれまでの経験からそう思います。今はまだ先の分からない未来も、今この時を精一杯生きて、家族とも真剣に向き合う。そしてそれがきっと、いい未来につながると思います。

「反抗期」。今しか味わえないこの気持ちと、本当の意味で家族とつながる大事なこの時を、思う存分楽しみながら過ごしていこうではありませんか。